

♪ 2018年度 **poco a poco** ♪

Nr. 11 2018年9月7日(金) 文責：プファイル・辰巳

合宿～修学旅行

そして学校祭へ・・・

先週は小学部5年生の合宿、今週は、中学部2年生の修学旅行、そして、来週は小学部6年生の修学旅行です。5・6年生の合宿・修学旅行引率のため、音楽の授業時間割の変更がたくさんあり、ご迷惑をおかけしております。申し訳ありません。ご理解よろしくをお願いします。

さて、この後は学校祭の準備で、学校中が沸き立ちますね。音楽の授業の中で、すでに劇の挿入歌の練習が始まっている学年もあります。みなさんの舞台上での活躍を楽しみにしています。



音楽こぼれ話 <作曲家のこの一曲 ⑩ B.スメタナ

連作交響詩「我が祖国」より“ヴルタヴァ”>

スメタナはドヴォルザークと並んで、チェコを代表する作曲家です。ドイツではフリードリヒ・スメタナと呼ばれることもあります。チェコ名は、Bedrich。ベドルジハと発音するそうです。

B.スメタナが生まれたのは、1824年。当時チェコはオーストリア（後にオーストリア・ハンガリー）帝国の支配を受け、母国語も満足に話せない状況でした。そのような圧政下で、チェコの人々の中には、チェコ独立を強く願い、母国語を話したいという気持ちが高まっていました。

スメタナはそうした願いや思いを音楽に託し、作曲活動に取り組みました。こうして生まれたのが連作交響詩「我が祖国」でした。チェコの自然や歴史、伝説に基づく6つの曲からできています。その中の第2曲目が「ヴルタヴァ」。日本では「モルダウの流れ」という名前でよく知られていますが、モルダウはドイツ語ですから、チェコの人たちはチェコ語の「ヴルタヴァ」と呼ばれることを願っておられることでしょう。

「ヴルタヴァ」はチェコを流れる川の名前です。ドイツとチェコの国境地帯の森から流れ出たいくつもの源流が合流し、森を抜け、急流となり、村々を通り、やがてゆったりと流れる大河となってドイツへと流れ去る川の姿を、河岸の自然や人々の暮らしの様子も交えて、音で描写したのがスメタナの作品です。



ちなみにこの「ヴルタヴァ川」は、ドイツに入るとエルベ川と呼ばれ、ドレスデンからハンブルクの方角にながれ、最後は北海に注ぎ込みます。

「ヴルタヴァ」の流れを象徴するメロディは大変有名で、合唱曲として歌われた経験を持つ方も多いのではないのでしょうか。原曲では、そのほかに、森での狩猟の場面、農民の結婚式の場面、月の光の中で踊る水の精たち、岩にぶつかる聖ヨハネの急流などが、オーケストラの楽器の音色で見事に表現されています。

中学3年生の鑑賞曲として教科書にも登場するこの名曲、機会があればぜひ生演奏で聴いていただきたいものです。

ちょっとだけ 演奏会情報

Bad Homburg オルガンフェスティバル

9月16日(日)～23日(日)

プログラム(抜粋)

9月20日(木) 19時30分から

Bad Homburg 市内 聖マリーエン教会にて
パンフルートとパイプオルガンの演奏

9月21日(金) 20時から

Bad Homburg Erlöserkirche (エアレーザ教会)にて
パイプオルガンコンサート

9月23日(日) 18時から

Bad Homburg Erlöserkirche (エアレーザ教会)にて
ライプツィヒ、聖トーマス教会少年合唱団の演奏

インフォメーション：www.orgelfestival-fugato.de